

第12回三大学連携事業

いのち・暮らし・まちを守る力 ～日常からつながる自助・共助のしくみ～

* 日 時 : 2015年10月17日 (土) 13時30分～16時30分

* 場 所 : 大阪市立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター大会議室

【三大学連携事業】

大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学は大阪都市圏に立地する大学として、より活発な相互交流を推進するため、幅広く連携を強化していくことについて合意し、平成20年11月6日に包括連携協定を締結しました。その連携事業の一つとして、平成21年度より公開講座を共同開催しています。

今回はコミュニティ防災をテーマに、“いのち・暮らし・まちを守る力”と題し、様々な災害の備えとして守る力を高めること、そしてそのための日常からつながる自助共助のしくみについて考えるシンポジウムであり、141名の参加を得ました。

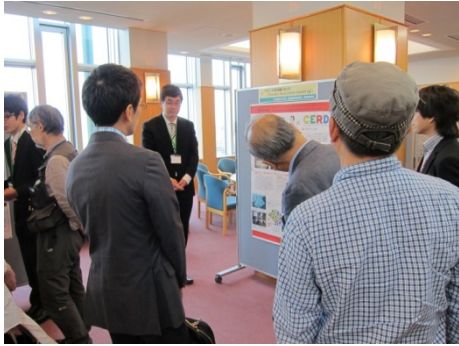
<p>【基調講演】</p> <p>災害知の社会実装に向けたコミュニティ防災の構築 (大阪市立大学都市防災教育研究センター所長・生活科学研究科) 森 一彦教授</p>
<p>【学生によるポスターセッション】</p>
<p>【講演】</p> <p>コミュニティ防災へむけた大阪市立大学での取り組み (大阪市立大学大学院理学研究科) 三田村 宗樹教授</p> <p>地域福祉から考える防災という課題 (大阪府立大学人間社会学研究科) 小野 達也教授</p> <p>生活に埋め込まれた防災を発見する (関西大学社会安全学部) 城下 英行准教授</p>
<p>【パネルディスカッション】</p> <p>■コーディネーター： 宮野 道雄 (大阪市立大学副学長)</p> <p>■コメンテーター： 森 一彦教授</p> <p>■パネリスト： 三田村 宗樹教授、小野 達也教授、城下 英行准教授</p>
<p>【交流会】</p>



森教授による基調講演の様子

基調講演では、東日本大震災をうけて、想定外の災害へどう備えていくのか、また国の防災計画の変化に伴い、地域防災から地区防災へと展開していく中で、本学を中心として取り組んでいるコミュニティ防災についての必要性について講演いただきました。

平成27年3月に開設した大阪市立大学都市防災教育研究センターでの活動であるコミュニティ防災教室より「いのちラボ」を同会場へ設置し、自由にご覧いただきました。



学生によるポスターセッションの様子

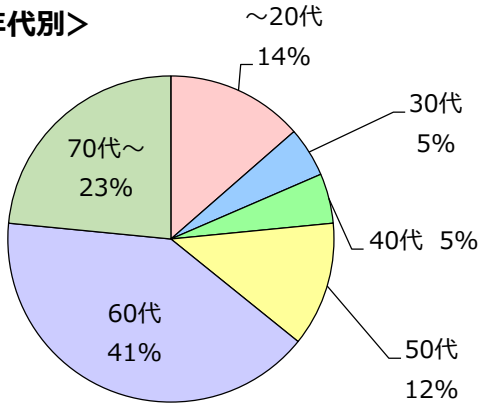
三大学の学生たちが、それぞれの研究内容を丁寧に説明いたしました。



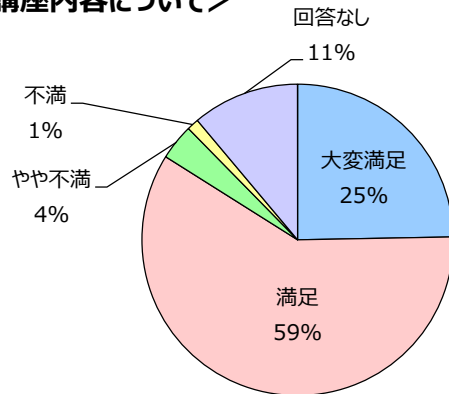
パネルディスカッションの様子

事前に参加者から受付けた質問へお答えするとともに、生きるためのリアリティをもっているか、またコミュニティ防災のためにつながりを共有していくことなどについて議論しました。

<年代別>



<講座内容について>



◆ 受講者からの感想 ◆

- ・非常に有意義な時間でした。内容が頭に残っている内に振り返り、又、親しい人達に伝えることから始めようと思います。
- ・学生によるポスターセッションでは、実際に研究されている取り組みがすばらしく、将来を楽しみに思います。地域が「がんばる」というのは新しく感じ、課題をもらった会になりました。
- ・防災について再認識できました。各大学による多方面・多角度からの研究発表は素晴らしかったです。自助共助の大切さについて、常日頃から個人が考え実践し地域で共有できればと思います。